

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<b>会 報 第 195 号</b>	2017年10月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	---

### 1. 活動報告（事務局 記）

—9月27日（水）二俣瀬ふれあいセンターにて臨時の役員会議を行いました。参加者は、原田会長、今井相談役、事務局（関根、原田、原谷、前田）、管観察隊長の7名でした。

①来年度の稲作については行うこととし、田植えは6月初旬、稲刈りは10月初旬とする。作業分担を協議し、活動日を増やすことにより、原田会員の負担を減らすことにします。

②宇部工業高校のボランティア活動は、11月7日の予定であり、作業内容はエコアップとし、胴長・長靴の保有数を確認して作業内容を決めることとした。

③今年の稲刈りは、10月14日に決定されました。

—9月30日（土）会員15名の参加がありました。活動内容は

- ① 田圃・ため池・遊歩道・水路周辺および法面の草刈り
- ② ヨケジ内の除草
- ③ 片付け

なお、里山の暮らし（11月25日）の段取りについても協議しました。

—10月7日（土）参加会員10名で作業をしました。

- ① 駐車場の草刈り
- ② 前回刈った草の片付け

—10月14日（土）最初に、豊作に感謝と安全祈願の式を行い、稲刈りの方法を説明しました。その後、稲刈りおよびハゼ掛けを実施しました。終了後雨が降りましたが、無事終わることが出来ました。終わってから、刈未て祭として豚汁とお握りを食べました。

参加者は、親子自然観察隊の親10名・子10名、二俣瀬子ども会の親14名・子14名、小学校々長1名、ふれあいセンター3名、山大学生3名、会員家族1名、会員17名でした。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

—11月7日（火）宇部工業高校ボランティア活動

◎行 事

—10月28日（土）稲脱穀予定（雨天により順延）

—11月5日（日）維持活動・草刈り

—11月25日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）

### 3. 来訪者の声

今回はありません。

#### 4. 会員の声 「来年の稲作体験」 (原田満洲夫 記)

当(里山ビオトープ二俣瀬)が例年行っている、「稲作体験」で面積はわずかで有るが、行う作業は一応何反・何町と行う稲作工程と同じである。

既に十何年とつづけて行って来た「稲作体験」で農業の経験の少ない会員や小学生高学年とその親御さんを対象に昔行った農業(稲作)の作業の方法や苦勞を知って頂く事もその一環であった。多くの面積をつくる時も、少ない面積つくる時でも細かい作業が時間的にはその面積割合とはならない。しいて言えば目は良く届くが無駄が多くなる。

その無駄な時間を、個人的には諸事情で採れなくなった。役員会で来年も続けて「稲作体験」を行う事になったが、来年度は多くの会員に今年まで以上のご協力をお願いすることになる。

以下を犠牲にしてイベントとして行う「稲作体験」をよく知ってほしい。

戦後の農業が進んできた道

- 1) 害虫には・苗代の蛾捕り・イナゴ捕り・浮塵子(うんか) 駆除等すべて農薬になり
- 2) 雑草には・田植え後のコナギ/稗の予防・生育時期の手押除草器にもすべて農薬で解決
- 3) 肥料は 厩肥と糞を混合作成した堆肥もすべて化学肥料となった。
- 4) 作業は牛馬を使った農耕からすべて箱苗・田植え機・コンバインでの刈り取りと脱穀・バーナによる乾燥・臼ひき等々すべて機械化

これでは作業は楽になったものの生産原価がすこぶる高くなり、米の価格は上昇せず稲作を廃業するしかない。耕地の荒廃が進んでいることを本当に知っているのだろうか？

“刈未てて 食べるむすびに 小雨ふる”

## 5. 親子自然観察隊 「稲刈り」に思う (管 哲郎 記)

稲刈り前後のお天気は雨が続き心配されましたが、運よくその日の午前中は曇り空、田んぼの中はかなりぬかるみ、みんな泥だらけになりながらの稲刈りでした。

しかし、作業の間は雨も降らず、けがもなく、1時間少々で稲刈りは無事に終わりました。新人の隊員さんは少し戸惑っていたようですが、高学年の隊員さんたちは稲刈りにもすっかり慣れ、以前と違い手際よくサクサクと稲を刈られていたようで、お父さんやお母さんに負けないくらい稲刈りが上手にできるようになったようです。

稲刈りの後の束ね作業、ハゼかけ作業、落穂ひろいまで、皆体験してくれたようで、少しでも、昔の稲刈りの体験ができたようでした。

現在の稲刈り作業ではすべて機械での作業になっており、ビオトープ側としても、稲刈り体験は必要なのか不必要なのかという意見もありましたが、今回はこれまで通り行おうということになりました。

ビオトープ・フィールドの維持管理ということも含め、「稲作体験」という行事を進めるには、地元の経験者の協力なくしては成り立ちません。しかしながら管理を行う人たちが高齢になり、来期からは毎月の管理日を1日増やさねばならない状況です。とりあえず来期は「稲作体験」は行いますが、ビオトープ会員だけでなく、「親子自然観察隊」の隊員ご家族にも、フィールドの整備(エコ・アップ作業)に参加できないか、ご協力をお願いしたいものです。

子供たちに学校行事だけでなく、フィールドでの経験や体験を通して、たくましく優しい人間に成長していただきたいと「ビオトープをつくる会」は願っています。その場所を提供し続けることが年々むつかしくなっていますので、少しでも多くの人々のご協力が必要なのです。

エコ・アップ作業の参加は強制ではありません、皆様の善意と熱意、子供たちを思いやるお気持ちで支えられます、とりあえず後日、11月、12月の「管理作業日」日程のご報告を差し上げます、皆様隊員のご家族のご多忙さは十分承知していますが、参加いただける方を募りますので、1回でもご協力いただけたら幸いです。



稲刈り



ハゼ掛け

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(22) カバマダラ *Danaus chrysippus* (迷入種)

鱗翅目 タテハチョウ科

以前は沖縄付近、南西諸島に生息していましたが、徐々に北上し最近九州にも定着しつつあります。さらに中国、四国、近畿、関東地方にまで飛来し、迷入種として記録されています。おもに夏場に多くみられますが、南方では通年見られますので秋の台風が過ぎると運ばれて飛来し秋にも見られます。

産卵し蛹になり羽化し成虫になるまで1か月ほどですので、山口県、四国地方などでは一時発生することがあり、県内では比較的温暖な瀬戸内海の光市で民家の庭先で一時発生しました。食草はトウワタ、フウセントウワタですので、民家の庭や畑などで台風の過ぎ去ったところによく見られます、台風により南方より送られてくるようです。林縁部、草原、農地、河川の日当たりのよい荒地や道路わきなどがねらい目です。代用食として“ガガイモ”に執着し産卵しますので、このツル性植物も要注意です。セイタカアワダチソウやセンダングサなどが吸蜜源となりますし、雑草地の上をひらひらと飛翔します。秋にはアサギマダラに交じってコスモス畑やフジバカマなどにも来ますので、注意してください。



トウワタの花



葉を食べる幼虫



カバマダラの蛹



トウワタに産卵するカバマダラ♀



吸蜜するカバマダラ♂

## 7. 会よりの連絡事項

- 1、稲作の最終段階の稲こぎ（脱穀）で長雨・台風の上陸予想等で遅れています。12月の収穫祭までには随分と時間もありますが、早く天候が回復し脱穀が行われることを願っています。
- 2、11月7日の宇部工業高校の現地学習会でのボランティア活動を有意義に行って頂く為会員の皆様には出来るだけ参加を頂きたく思います。数年前はやった協働活動（共同の言葉から変化）であると思います。  
学生の若い力とベテランのテクニックが活かされ、より良い効果を上げることを望みます。

## 8. 編集後記

役員会議で協議して、来年の稲作を今年と同じように行うことが決まりました。やると決まれば、それぞれの担当はどうするかが大きな問題です。水・雑草・害虫などの管理はどうしても地元の人に頼ることになり、地元の会員も高齢化され、あれもして下さい、これもして下さいとお願いすることも難しくなってきました。そこで会員の監視の目を増やすには、維持活動の回数を増やして（参加人数が少なくても）田んぼの状況を皆で確認しておくことも必要かと考えます。そうしてもうまくいかないようなら、稲作はもう止めて、草刈りなどの維持活動のみとなります。台風・決壊などの非常時の対応をどうするかも、地元の方に頼るのではなく、会員全体で決めておく必要もあるかと考えます。そのようなことは、役員・事務局の話と決めつけしないで、皆様の良いアイデアをどしどし出して下さい。

（ 原谷 一誠 記 ）